

千秀だより

横浜市立千秀小学校

3月号

平成29年(2017)3月 1日



一年間ありがとうございました。

校長 市川 幸男

大船駅西口バスターミナルに面した通りに、3本の玉縄桜があります。昭和44年頃に大船フラワーセンターで開発・育苗された早咲きの桜ですが、まだ幼木ながらも精一杯、枝を伸ばし、現在満開となっています。普段ですと駅から信号のない連絡道を通って、毎朝バスターミナルに行くのですが、この時期だけ、駅から階段を降り、桜の木の横を通って「今年も咲いてくれて、ありがとう。」と樹に声をかけて、バス乗車に至ります。若い頃は、それほどでもなかったのですが、年を重ねてくるにつれ、桜の花が開くのを心待ちにするようになってきました。桜の花に「ありがとう」を言うのは、春の訪れを招いてくれたことへのお礼なのです。

「ありがとう」といえば、最近ある機関の調査結果を目にすることがありました。それは、「言われてうれしい言葉は何ですか？」という言葉に関する調査結果です。その第1位が「ありがとう」なのです。言われた57.2%の方が、うれしくなると答えています。ちなみに2位は「おはよう・こんにちは」といった挨拶の言葉。3位は「大好きだよ」4位は「お疲れさま」5位は「気が利くね」と続きます。私自身を振り返ってみても、そんなにさわやかな人間とはいえませんが、確かにこの言葉を耳にしたり口にしたりと心が柔らかくなることを感じます。「ありがとうは」何か不思議なパワーを持っているとしか思えません。この「ありがとう」の元々の意味は、漢字で「有難う」と示されるように、「あり得ないこと」もしくは「存在しないこと」が起こったときに、神や仏を賞賛する言葉だったそうです。それが、室町時代の頃から、人に対しても使われるようになりました。神と人が区別されることなく同じ場所に存在し、交わり助け合える。日本ならではのこともかもしれません。そう考えてみると、確かに諸外国の「ありがとう」に当たる言葉、例えば英語では「Thank you」、フランス語では「Bonjour (ボンジュール)」ドイツ語では「Danke schön (ダンケ シェーン)」などがあります。そのいずれもが「私はあなたに感謝する」という言葉で、人に対しての感謝に限定されます。その意味では、人と神仏とを明確に分け、言葉も使い分けていることがうかがえます。日本語の「ありがとう」には、たとえどんなに小さな助けであっても、その行為の心こそ神や仏につながる尊いものという響きがあるのだと感心します。毎年のように決まってこの時期に花を開き、春を告げてくれる桜に、「ありがとう」の一言を投げかけながら、そんなことを考えていました。

さて、3月となりました。年度のまとめの月です。皆様のご尽力のおかげで、子どもたちもすくすくと成長し、4月の頃と比べると、本当に大きくなったと感じます。今月18日には、6年生が卒業し、新たな世界へと旅立ちます。また、1年から5年生までも24日には、現在の学年での授業を終え、一つ上の学年へと進級いたします。毎日笑顔を振りまき、元気に育てくれた子どもたち。一年間、千秀小学校の教育にご理解いただき、多くのご支援、ご協力をいただいた保護者の皆様。そして学校を支えバックアップしていただいた地域の皆様に心からの感謝の言葉として「ありがとうございました」の言葉を贈らせていただきます。